

## 平成 30 年度 第 4 回萩市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 28 日（木）14：00～16：00

場 所：萩市役所 大会議室

### 1. 開会

**【事務局】** 定刻になりましたので、ただ今より、第 4 回萩市地域公共交通会議を開催致します。まず、本日は全委員 26 名のうち、代理出席も含めて 23 名の委員が出席されていますので、会議の成立要件を満たしていることを報告させていただきます。また、会議は前回と同様に公開とし、議事録等についても基本的に HP 等で公開とさせていただきますので、ご了承をお願い致します。

### 2. 会長あいさつ

**【会 長】** 本日は、委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして厚くお礼申し上げます。萩市では、高齢化が進んでおり、とりわけ周辺部では高齢化率が 50%以上で、2 人に 1 人は高齢者という超高齢化社会になっております。そうした中で、交通弱者である高齢者を中心とした方々の足の確保が喫緊の課題となっております。委員の皆様方には、交通会議において、現在策定を進めている地域公共交通網形成計画について、色々なご意見をいただき、協議を進めながら策定を進めているところでございます。今月は、地域意見交換会として、昨年 7 月以降に実施した住民の方のアンケート調査結果、あるいは路線バスに乗り込んでの調査結果、これらの概要を各地域でご説明を申し上げて、今後の公共交通の在り方、考え方の案について意見交換を行い、各総合事務所管内においては全て終了したところでございます。本日は、地域意見交換会の資料もでございます。また、網形成計画については、第 1 回目の素案として整理しました。その内容について忌憚ないご意見をいただき、計画の実行性があり、市民の暮らしを支える利用しやすい交通ネットワークの形成に資する計画になるように考えております。本日は、宜しくお願い致します。

### 3. 議事

(1) 地域意見交換会の進捗状況について（資料 1）

**【事務局】** 資料 1 に基づき説明（省略）

**【会 長】** 只今の事務局からの説明に関しまして、ご質問やご意見等がございましたら、宜しくお願い致します。

(質問や意見が特になし)

それでは、次の議事と併せて、ご質問やご意見等をいただくという事で進めさせていただきます。

(2) 萩市地域公共交通網形成計画(素案)について(資料2、資料3、資料4)

【事務局】資料2、資料3、資料4に基づき説明(省略)

【会 長】: 只今、事務局から素案について説明がありました。今回の素案は、これまでの調査結果や各総合事務所管内での地域意見交換会を通して、事務局として考えられる素案を整理したものであり、今後は具体化に向けて、事業者の方々と協議を進めていく必要があります。ご質問やご意見等がございましたら、宜しくお願い致します。

【防長交通 寶迫委員】: 会長から説明があった通り、この素案は、先日事前に配布された資料で、内容を初めて目にした。そのため、今後しっかりと議論をする必要がある。できるもの、もっと検討する必要があるもの、できないもの、形を変えてできるものなど、いろいろあると思う。バス事業者としては、乗務員不足という問題があり、今まで通り運行を維持できない懸念がある。労働者人口の減少により、乗務員の採用も進まない。公共交通を持続可能なものとして続けるために、将来にわたって残っていくあり方を、一緒になって考えたい。

【事務局】: ご意見いただいた通り、今後、交通事業者の皆さまと協議しながら具体化できればと思います。よろしく願いいたします。

【防長交通労働組合】: 防長交通の運転手です。素案には、お客様の声など普段耳にするようなことが書いてある。長門市では今年4月から、宗頭～落志畑バス停間でフリー乗降区間を設ける。通常であれば、あの区間でフリー乗降区間を設けるのは難しいが、長門市は網形成計画の取組みの中で進めている。萩市の中でもフリー乗降区間を設けており、木間に行く若宮神社線、惣良台線、須佐・田万川循環線などがある。これらの路線は利用者が少ないため一度廃止されており、廃止代替バスとして萩市の補助金で運行されている。このような路線では、フリー乗降区間を設ける事が可能である。萩BC～堀越線も大井馬場以降は、フリー乗降区間として考えられないか? 素案では、幹線と支線の概念を設定している。大井馬場以降のような支線は、フリー乗降区間を設けて、バス停から500m以上離れ

ているような方でも家の近くでバスに乗れるようになると良い。今までは、法律の壁があり、それが出来なかった。しかし、市町村で色々な事を決められるようになったため、可能ではないかと思う。大井馬場以外にもフリー乗降が適した区間があると思う。ぜひ考え方にいれていただきたい。お金はかからないが、法律の壁はある。

**【事務局】**：フリー乗降区間については、素案から案への検討を進める際に、参考させて頂きます。

**【秋本委員】**：素案は、今後、事業者をはじめ、関係者と協議をして内容を詰めていっていただきたい。今後の参考として、地域公共交通網形成計画は、平成26年に今の法律の内容になって4年経過した。全国で400件以上策定されている。これまでは、単独の市町村で網形成計画が作られていた。策定件数が増えてきた中で、国としては、今後の方向性として4つの観点を挙げている。まず、今までは陸上交通を対象としたものがほとんどであったが、鉄道、船、タクシー等、バスだけでなく、連携した交通網を作る考え方が必要である。次に、素案に隣接の自治体との連携の必要性と記載しているように、広域の交通網の形成を進める必要がある。次に、まちづくりの観点。萩市では、来年度策定予定の立地適正化計画も並行して進められており、立地適正化計画との連携をお願いしたい。次に、観光客の方に対して、観光まちづくりの可能性もある。これらの4つの観点を踏まえて、計画づくりをお願いしたい。また持続性を高めるために、利用者を増やしていく必要がある。人口が減っていく状況下で、今使っていない人が月1回でも使ってもらえるように利用促進にも取り組んでいただきたい。

**【事務局】**：ご意見いただいた4つの観点や利用促進について、今後しっかり計画作成の中で反映させたいと思います。

**【副会長】**：今回の素案で、事務局の課題認識と具体的な施策が結び付いてきて、中身が詰められてきた。数点確認させて下さい。

①素案95ページの「地域コミュニティ交通の確保と取組に対する支援」について、現在公共交通に位置付けられていない、ぐるっとバスや地域コミュニティ交通を公共交通として取り込む視点は、一つの目玉、大きな取り組みであり、意欲的な取り組みと受け止めた。伺いたいのは、将来的には、ぐるっとバスと自家用有償旅客運送は、それぞれが残って役割分担するのか、一体化するのか、考えを

教えていただきたい。将来的な考え方も今後網形成計画の中で示す必要がある。

②また自家用有償旅客運送を立ち上げる際に、補助金が必要になると想定される。その際に、補助の方針やある程度の基準が必要になる。網形成計画で記載する内容ではないが、今後、自家用有償旅客運送の導入を具体化する中で詰めていく必要がある。

③ぐるっとバスについて、事務局はどちらかという有料化を考えているということで、よろしいか。網形成計画の中で方針を示す必要がある。

④素案 89 ページの「利用しやすい運賃の設定」について、山口市の高齢者への運賃補助制度は、宇部市の制度と同じで、宇部市では年間 1 億円程度の支出であったと聞いている。萩市においても網形成計画で示されるのであれば、毎年予算措置が必要になる。もちろん準備されることを考えていると思うが、その認識でよいか。また運賃補助の施策を進める場合、何のために実施するか、理念が必要と思われる。地域意見交換会の話を知っていると、地域間の公平性や旧市町村を超えた今の萩市としての統合が理念としてあるかと思う。宇部市の網形成計画でもそのような考えで取り組みを進められていた。萩市における理念を今後示していく必要があると思う。

⑤これらと関連して、このタイミングで運賃補助を考えるとすると、IC カードの活用も考えられる。県内のバス事業者内では、同じようなスケジュールで IC カードの導入が遡上に上がっていると思われる。これらのスケジュールも含めて、運賃補助の制度設計を検討していただきたい。

特に回答いただきたいのは、ぐるっとバスと自家用有償旅客運送の考え方についてです。

**【事務局】**：現在のぐるっとバスと地域コミュニティ交通の件について、高齢者の生活支援サービスは、福祉の施策で実施しています。そのため、要支援 1 以上の方に利用者が限定されており、これだけで高齢者の足の確保はできません。現在のぐるっとバスだけ、生活支援サービスだけではなく、NPO 等による自家用有償旅客運送も含めて、地域の実情に合わせて総合的に足の確保を考えたいと思います。ぐるっとバスの有料化は、網形成計画の中で記載すべきとのことでしたが、地域意見交換会でも「無料であるため、気兼ねして使いづらい」といった意見も多くいただきました。また、これから自家用有償旅客運送を導入していく際に、ぐるっとバスは無料で、自家用有償旅客運送が有料であると、その導入が進みません。各地域の負担の公平性の観点もあります。ぐるっとバスの有料化も含めて計画の中で検討していくことを考えています。

**【副会長】**：自家用有償旅客運送では、対象者の制約はないですね。生活支援サービスは、福祉の延長でやっていると理解した。自家用有償旅客運送を導入すると考えると、ぐるっとバスと守備範囲が似ているのではないか。私は、最終的には一体運用のイメージかと感じた。

**【会長】**：その地域の公共交通をいかに担うかが重要だと考えている。生活支援サービスは、介護保険の総合事業として福祉施策で進めている。ぐるっとバスは地区内を運行しているが、足としては十分でない。このような状況下で、自宅からバス停までの交通も必要であり、地域コミュニティ交通の推進を考えている。交通空白地対策として、自家用有償旅客運送を行う場合、利用者の登録、運行区域を決めていく必要がある。ぐるっとバスは、須佐や田万川地域の例では、地域拠点を結ぶものとして運行している。これらを融合することで、利用者が選択できるような総合的な交通体系ができないか、検討している。将来的には、一体運用なのか、役割分担なのか、今後検討していく。但し、現状はぐるっとバスだけでは足の確保ができないため、自家用有償旅客運送もしっかり進めたい。それによって、地域の足が確保できる。

**【横山委員】**：川上地域内には、防長交通とぐるっとバスがあるが、いつも空便で運行している。時々私がバスを利用する際は、一人程度の利用者しかいない。利用者のデータを使って、もう少し便の効率化を考えることはできないだろうか。ぐるっとバスも乗客がいなくても運行するのではなく、デマンド方式や有料化など、方法はあるのではないか。長い距離を運行しているが、空便が多いように感じる。

**【事務局】**：利用者のデータについて、参考資料2の12ページをご覧ください。須佐地域の地域意見交換会の資料を例に説明させていただくと、路線バスの路線毎にバス停別の乗降者数や、利用者の年代に関する調査結果を示しています。例えば、須佐・田万川循環線の時計回りは、弥富支所から、須佐駅、江崎駅を通り、弥富支所まで戻る路線で、江崎駅での乗降が多いです。岩見交通の小浜江崎線は、須佐駅前で乗り、益田市内のゆめタウン、イオン、日赤病院等で降りられており、70代以上の方がほとんどです。参考資料2の17ページには、ぐるっとバスの方面毎の利用者数の調査結果を示しています。須佐や田万川地域は、デマンド運行しており、方面毎に利用状況が異なります。このように、路線バスやぐるっとバスの利用状況の調査結果をお示しした上で意見交換会を実施しています。

また、先ほどご意見いただいた通り、ぐるっとバスの定時定路線は空便が走っているという状況はあります。定時定路線は、地区内の全ての集落を回っており、各集落に1日一往復程度しか回らない。このような状況を踏まえながら、デマンド化等のより効果的な運行について検討を進めています。

**【横山委員】**：病院から直接患者を送り迎えする病院送迎バスもある。全ての地域で病院に行くことも考慮する必要がある。患者数が少ない病院では、送迎バスが増えており、このような取組みもデータの中に取り込むと良いのではないかと。

**【防長交通 寶迫委員】**：私も今日会議に来る途中に病院の送迎バスを見かけた。当社の運行エリアの周防大島では、個人病院が、患者の確保のために病院送迎バスを運行している。それまでは、バスや電車で通院されていた方が、病院送迎バスに乗り替わっており、バスの利用者が少なくなっている。

バスの運行について少し話をすると、バス会社が独自で自主運行するパターン、国庫補助をいただき運行するパターン、県や市町村の補助をいただき運行パターンなど、様々なパターンがある。国庫補助路線は、輸送量について一定の基準を満たす必要がある。利用者が少なくなり、基準を満たさなくなると、今までの国庫補助から、県や市町村に補助をいただかないと、維持できない場合もある。バスに対して、利用促進を図ることは、これから先もバス路線を残す事につながる。病院送迎バスは、自宅まで迎えに来てくれるため、利便性が高い。バス停まで歩くのも難しい方には必要だが、バス停まで歩いて行ける方もいる。利用促進を図らなければ、将来的に公共交通を維持しようと思うほど、市としての持ち出しが増加する。市の全体予算の中での公共交通の割合が増加してしまう。利用促進の視点からもしっかりと取り組んでいただきたい。

**【大田委員】**：むつみでは、路線バスとぐるっとバスが運行している。ぐるっとバスは週2日、地域内の診療所、総合事務所などを利用する目的で運行している。診療所には眼科など診療を受けられない専門科もあり、旧萩市内まで行きたい人もいる。自宅からバス停に行けない人もいるので、そういった人をバス停に連れていくことを考えると、防長交通の利用者も増えると思う。

**【事務局】**：ぐるっとバスで地域内の自宅から幹線のバス停まで届ける事で、路線バスの利用が増えることもあるため、検討したいと思います。

先ほど榊原教授からご意見をいただいた、運賃とICカードについて、運賃補助を

考える際に、どの程度の施策効果があったのか、算出する上で有効だと考えています。他市町村の100円バスの経費精算を例にすると、ICカードが無い場合、年1回の乗降調査により、支払い方法や高齢者の割合を調査して、精算しています。ICカードを導入することで、より正確に高齢者の利用実態を把握することが可能になります。

**【副会長】**：宇部市の交通局でも、乗降調査を実施しており、運賃補助や利用実態の把握という話も含めて、ICカードの話が具体化しているので、検討していただきたい。ぐるっとバスと防長交通の結節点の整理について、問題意識として、前回の交通会議でも話があったが、道の駅などでの結節が考えられる。また快適な待合環境として、屋根やトイレが考えられる。そういったものが無いところ、待合環境をつくる取り組みが必要だと思う。

**【会長】**：バス停まで行けない方について、自宅からバス停までの移動をしっかりと考える。それから幹線に結節する。交通結節機能の充実について、道の駅も含めて、どこが有効か網形成計画の中で考える必要がある。

**【防長交通 寶迫委員】**：ICカードの話について、利用状況のデータを取れるようになるメリットがある。また市町村によっては、高齢者の施策としてICカードを作られている場合もある。通常のICカードは乗る時にタッチして、降りる時にタッチすることで、どこからどこまで乗って、運賃が支払われる。例えば、萩市の高齢者対策として、ICカードの導入も考えられる。100円の運賃カードを導入することで、後から補填をしなくても良い。

**【横山委員】**：最初から5,000円のを3,000円にして渡す方法もあるのではないか。

**【防長交通 寶迫委員】**：他市町村の例では、高齢者への施策を始める場合、70歳以上の希望者に、年間1万円分を市が補助する制度がある。初年度は、1万円がチャージされたICカードを配布して、次年度以降は、市からハガキが届いて、コンビニでチャージできるようになっている。

**【会長】**：利用促進の観点で、ご意見を頂きました。その他ある意見はあるでしょうか。

#### 4. その他

【会 長】今回第1回目の素案として提示して、様々なご意見をいただいた。いただいた意見を整理した上で、また4月から萩地域の意見交換会も踏まえて、計画案を作成したい。最終的には、今年の12月の策定を目指しており、今後も皆様のご意見を頂きたい。宜しくお願い致します。議事について、以上で終わりたいと思います。

#### 5. 閉会

【事務局】委員の皆様には、長時間にわたりご協議いただき、まことに有難うございました。本日いただきました、ご意見等については、今後の計画(案)策定に反映してまいりたいと存じます。以上をもちまして、平成30年度第4回萩市地域公共交通会議を終了させていただきます。次回の会議は、7月の開催を予定しております。本日は、有難うございました。

以上